

## シュンギク（夏秋）

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型	雨よけハウス												
主な作業		<p>播種 →</p> <p>収穫 →</p>											

シュンギク キク科、原産地：地中海沿岸

作物名 シュンギク

学名 *Chrysanthemum coronarium* L.

作型 夏秋

4 施設装備

単棟ハウス

5 経営目標

- |            |            |
|------------|------------|
| (1) 収量     | 2 t/10a    |
| (2) 投下労働時間 | 400 時間/10a |
| (3) 所得率    | 60%        |
| (4) 経営規模   | 20a        |
- (家族労働力 2 人の場合)

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

短期間で収穫ができる。夏秋作は冷涼な気候を好むシュンギクには、最適な栽培環境の時期とは言い難い栽培であるが、ハウレン草より高温期に作りやすく土壌病害も少ない。ハウレン草と組み合わせた作型が特徴である。

#### 2 適応地域

阿蘇

#### 3 栽培条件

##### (1) 温度

最適発芽温度は 15～25℃（最低 10℃、最高 35℃）。冷涼な気候を好むが、夏秋作の場合、生育適温の 15～20℃よりも高くなる。

良品を得るには、降温化に努め生育適温の期間（時間）なるべく長く保つ。

##### (2) 光条件

好光性種子なので、覆土は薄くする。

##### (3) 土壌条件

土壌の適用範囲は広いが、保水力のある土壌が望ましく、有機質の施用が必要である。土壌 pH は 5.5～6.0 前後がよい。

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

中葉系：葉の欠刻があり、葉先は尖り幅はやや広い。葉肉は大葉系ほど厚くはないが、芳香は強い。最も多く栽培されている品種。夏秋作では、べと病等病害抵抗性を考慮し品種を選定する。

「さとゆたか」

「中葉春菊」タイプで生育は若干遅れるが、節間のつまった草姿で、葉形もよくそろい、側枝の出もよく、摘みとり栽培にも適する。また、べと病に非常に強く、初夏～初秋の激発期にも安心して栽培できる品種である。

#### 2 播種

ハウレン草の出荷が少なくなる 5 月下旬から連続的に出荷できるように 4 月下旬から 9 月中旬まで日をずらして播種する。播種量は 2～3 ㍓/10a。5.4 m 幅ハウスに 28～30 条、条間 17～18cm 播き。発芽

揃いを良くするため、播種前に種子を一晩浸種すると共に、本圃も充分灌水し、播き溝が乾燥しないうちに、手押し式播種機を使って“すじ播き”する。好光性種子であるため、覆土は薄くする。覆土後は乾燥を防ぐため、敷きワラや寒冷紗を用いることもある。

- ① 5月まき栽培 45日程度
- ② 6～8月 〃 40日程度
- ※播種は－1週間

### 3 施肥

施肥量	(K g /10a)		
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
基肥	0～5	0～5	0～5
追肥			
全量	0～5	0～5	0～5

ハウレン草の後作であり、しかも短期作物であるので、土壌分析を行い残肥を計算して施肥を行う。

### 4 間引き

本葉2～3枚期に行い、株間は広め（6～10cm間隔）とする。

### 5 温度管理

冷涼な気候を好み生育適温が15～20℃である。良品を得るには、雨よけハウス内の降温化に努め生育期間内の生育適温期間と1日に生育適温となる時間をなるべく長く保つことが必要である。

### 6 病害対策

病害対策は、抵抗性品種の利用が基本であるが、夏の暑い時期の栽培であるので株間を広げ風通しを良くする、妻面の換気を行うなど降温化対策等も併せて実施する

### 7 収穫

夏場は、根から掘り取り収穫を行う。  
 根付き収穫は、草丈が15cmを越えた頃から開始し、抜き取って結束する。  
 秋は、摘み取り収穫は、草丈が25cm以上になった頃、地際を2～3cm残して収穫する。次の新芽の収穫が10月中旬頃まで可能である。  
 生育日数目安（摘み取り）